

# 平井 丈一朗

## チェロ演奏会



指揮  
平井 秀明

Conductor: Hideaki Hirai

ピアノ  
平井 元喜

Piano: Motoki Hirai

管弦楽  
平井丈一朗ジュビリー・オーケストラ

Takeichiro Hirai Jubilee Orchestra

〈主催〉  
平井丈一朗傘寿記念コンサート実行委員会

■マネジメント: (株)インターミュージズ・トーキョウ

■チケット取り扱い:

・(株)インターミュージズ・トーキョウ / Tel.03-3475-6870  
E-mail: intermuse@opt.gate01.com

・チケットぴあ / Tel.0570-02-9999 (Pコード328-740)

・東京文化会館チケットサービス / Tel.03-5685-0650

ヴィヴァルディ: チェロソナタ 第2番 ヘ長調

Vivaldi: Cello Sonata No.2 in F major

ベートーヴェン: チェロソナタ 第3番 イ長調 作品69

Beethoven: Cello Sonata No.3 in A major Op.69

ハイドン: チェロ協奏曲 ハ長調 (平井丈一朗のカデンツァによる)

Haydn: Cello Concerto in C major (Cadenzas by Takeichiro Hirai)

平井丈一朗: 祝典序曲 (チェロ&弦楽オーケストラ)

Takeichiro Hirai: Celebration Overture (Cello & String Orchestra)

平井丈一朗: 「ローレライ」による幻想曲 (チェロ&管弦楽版初演)

Takeichiro Hirai: The Lorelei Fantasy (Cello & Orchestra Version Première)

2017 8/28 (月) 7:00pm

東京文化会館小ホール

Tokyo Bunka Kaikan Recital Hall

東京・JR上野駅 公園口

指定席 ¥7,000 / 自由席 ¥5,000

### プロフィール

平井丈一朗 Takeichiro Hirai

巨匠カザルスの高弟であり、かつ、その後継者としてわが国が世界に誇るチェリスト。『Who's Who in the World』(欧米版「世界紳士録」)に載る数少ない日本人の一人。1937年作曲家平井康三郎の長男として東京に生まれ、小学校時代すでにピアノ協奏曲ほか約100曲を作曲し、ピアノで演奏会、放送にしばしば出演。桐朋学園でチェロを斎藤秀雄氏に師事。第23回日本音楽コンクール第1位特賞、第1回文化放送音楽賞特賞、第1回カザルス国際コンクール特別賞、ソ連作曲家同盟特別賞など数々の内外コンクールで受賞。

1957年より5年間、世紀の巨匠パブロ・カザルスに師事。師とともに欧米各地を楽旅しつつ研鑽を積み、チェロ音楽の蘊奥を究めた。

1961年4月、巨匠カザルスは愛弟子の晴れの帰国デビューを飾るため特に来日し、平井は恩師の指揮により、東京と京都でドヴォルザークなど四大協奏曲を演奏、皇太子・美智子妃殿下(当時)の御来臨を得て華々しくデビュー。以来ソリストとしての演奏活動は全世界40ヵ国にも及び、至る所で輝かしい成功を収めている。

カザルスは平井丈一朗を伴ってニューヨークの記者会見に臨み、世界中から集まったジャーナリストの前に「平井こそは我が後継者」と語っている。

1979年、世界でも例のない“弾き振りによる”三大チェロ協奏曲の夕べを開催。1980年以来、外務省及び国際交流基金の派遣により、日本国芸術使節として中南米7ヵ国並びに東南アジア諸国を歴訪、熱狂的歓迎を受ける。

1988年1月、皇太子徳仁殿下をお迎えし、自作「イスラ・ヴェルデの詩」を含むユニークなプログラムによりリサイタル開催。同年、米国ワシントンD.C.で開かれた第1回世界チェロ大会に、ナンシー・レーガン大統領夫人より招待を受け、特別ゲストとしてオープニングコンサートで演奏し、多大の感銘を与える。1990年代以降の多彩な足跡の中からいくつかを拾うと、ヴァージニアの国際音楽祭芸術監督として、更にワシントンD.C.国立ケネディ・センターの全面招聘による米国公演の圧倒的成功などのほか、一連の“ワールド・ハンガー・コンサート”にも力を入れ、世界飢餓救済に尽くすアーティストとしても活躍。またポーランドにおける“平井丈一朗アウシュビッツ・コンサート”では満員の会場が深い感銘の渦につつまれた。2009年の欧州5ヵ国楽旅(英国、デンマーク、スペイン、ルーマニア、フランス)は、バルセロナで催された「カザルスと平井丈一朗・写真展」並びにテレビ出演と合わせて音楽界の話題をさらった。作曲家としては、管弦楽曲、ピアノ曲、チェロ独奏曲、歌曲、合唱曲など幅広いジャンルに特筆すべき業績を残し、他方、米国キャピタル音楽協会チェアマン、国際コンクール審査員、国内では詩と音楽の会(ACA)会長、日本音楽作家団体協議会(FCA)理事なども務めている。

2011年「東日本大震災被災地支援チャリティ・リサイタル」開催。この時演奏した新作「祈りのアリア」は、被災者の痛みを和らげたいとの平井の切なる願いがこもった作品として、また2013~14年初演の2曲、“幻想曲「和」”と“越後の幻想”は、日本の美と情趣が胸に迫る曲として、いずれも大きな反響を呼んだ。なお、今回演奏されるハイドンの協奏曲ハ長調は今を去る51年前、平井丈一朗により日本初演が行われ(コンサート並びにNHKテレビ)急速に広まっていった曲である。

www.takeichiro-hirai.com

### 外紙の批評より

☆ワシントン・ポスト紙(U.S.A.)

平井丈一朗は聴衆にチェロ演奏の何たるかを教えてくれた。  
…これ以上の演奏はあり得ないだろう。

☆フィガロ紙(パリ)〈平井丈一朗——音楽の予言者〉

彼は疑いもなく世界屈指のチェリストである。

☆ラ・ナシオン紙(アルゼンチン)

〈大喝采の平井丈一朗リサイタル〉

平井の演奏家としての姿勢は真摯であり、かつ柔軟であり、それ故あらゆる種類のレパートリーに率直な感動を与えることができるのである。

☆タス通信(サント・ペテルブルク)

〈円熟の平井丈一朗——完璧の名人芸と洗練された味わい〉

☆南ドイツ新聞(ミュンヘン)

平井丈一朗氏は巨匠カザルスの後継者たるにふさわしい堂々たる音と卓絶したテクニックをもって、作品の一つ一つに本来の作曲者の精神を伝える名演を行った。

☆エル・ムンド紙(バルセロナ)

平井丈一朗の演奏は驚嘆すべき純粹さと、時代に流されない確信性で貫かれていた。虚飾を排して音楽の本質に迫るその演奏はカザルスを彷彿とさせる格調高いものであり、胸を裂くような強烈な感動を呼んだ。

平井秀明 Hideaki Hirai(指揮)

平井丈一朗の長男。幼少よりチェロを父平井丈一朗に、ピアノと作曲を祖父平井康三郎に師事。米国ロチェスター大政治学科卒業。97年第6回フラゲッツ・クラウロベ国際指揮者コンクール(チェコ)で第1位。2000年、ヤナーチェク・フィルの定期演奏会にデビュー。東京フィルをはじめ殆どの国内主要オケに度々客演する一方、オペラ指揮者としては「椿姫」、「蝶々夫人」、「ラ・ボエーム」、「カルメン」などを指揮、新国立劇場では「フィガロの結婚」、「セルセ」ほかを指揮して絶賛された。自作オペラ三部作の「かぐや姫」、「小町百年の恋」、「白狐」はザルツブルク、プラハ、豪州、ロサンゼルスなど内外で30回以上再演を重ねている。2010年、チェコ・ヴィルトゥオーゾ室内管弦楽団の首席客演指揮者に就任し、チェコ国立ブルノ歌劇場モーツァルト・ホールにて定演を指揮するほか、2012年、ウィーン国立歌劇場指揮デビュー。2013年にも同歌劇場に再登場。更に、同年12月には米国カーネギーホール指揮デビューで圧倒的成功を収め、2014~15シーズンより、ニューヨーク祝祭管弦楽団の音楽監督・指揮者に就任。現在、日米欧の各地で幅広い音楽活動を展開している。

www.hideaki-hirai.com

平井元喜 Motoki Hirai(ピアノ)

1973年、平井丈一朗の次男として東京に生まれる。祖父・平井康三郎にピアノと作曲を、祖母にヴァイオリンを学ぶ。桐朋高校を経て、慶應義塾大学文学部哲学科卒。1999年、英国王立音楽院大学院ピアノ科卒。同年、“サー・ジャック・ライオンズ音楽賞”受賞。2000年ロンドン・シティ大学修士課程修了。これまでBBC、NHK「名曲リサイタル」、テレビ朝日「題名のない音楽会」等に数多く出演。「平井元喜ピアノ作品集」などCD録音も多数。スタインウェイ・アーティスト。現在、ロンドンを拠点に世界各地で活躍し、その類いまれな音楽性と詩的センスは世代を超えて共感を得ている。2011年、アメリカのカーネギーホールで、2014年には、オランダコンセルトヘボウでのリサイタルを成功させた。また、音楽を通して平和・環境・医療・教育問題にも意欲的に取り組んでおり、東日本大震災では、被災地支援コンサートを数多く行っている。また、バービカンセンター(ロンドン)、コンセルトヘボウ(アムステルダム)、コンツェルトハウス(ウィーン)をはじめとする《平井元喜ワールドツアー2016》では、委嘱新作(自作)・小倉百人一首による《音詩》が披露されたこともあり、各地とも大きな注目を浴びた。

www.motoki-hirai.com

